

土岐議員

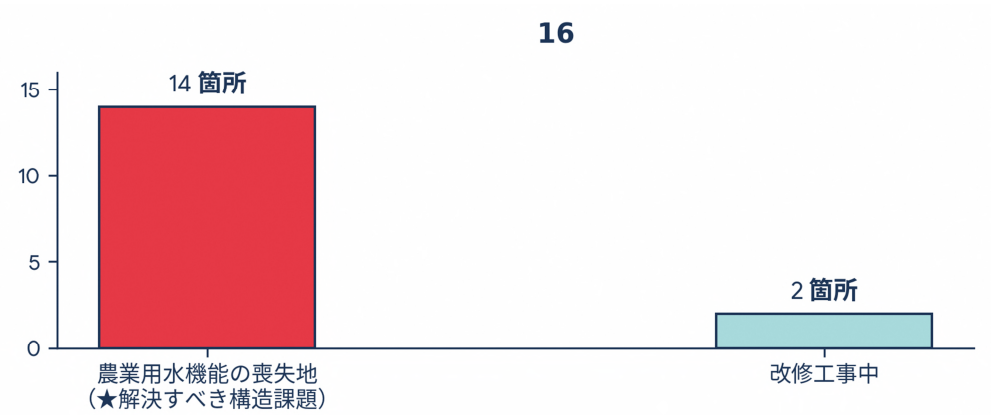
説明資料

令和 8 年 9 月議会 一般質問説明資料

廃池等を「地域の負担」から「地域資源」へ

亀岡市議会議員 土岐 新

1. 亀岡市で見えている課題（現状と問題意識）



【課題の本質】

「水を使うための池」としての農業的役割を終えた後も、地元住民には草刈り・樹木管理・排水対策・法面保全などの重い「ボランティア負担（人手・費用）」が課せられたままとなっています。地域の善意のみに過度に依存しない、持続可能な管理プロセス・枠組みへの再編が必要です。

2. 活用可能な既存予算と制度（亀岡市・京都府）

💡 論点：制度の有無ではなく、既存制度の対象外となる市有地まで含め、「誰が管理し、どこから再編するか」の横断的な仕組みが存在しない点。

活用できる財源・制度	予算額・区分	資料から確認できる位置付け・意味
農村地域防災減災事業費	3,000 万円	亀岡市令和 8 年度当初予算に計上
農業水路等長寿命化・防災減災事業費	2,000 万円	質問準備資料にて確認した当初予算枠
府営事業負担金	3,150 万円	当初予算計上（昭和池、横輪池、岩ヶ谷池等）
京都府：ため池廃止への補助	定額補助あり	農業基盤整備事業関係補助金交付要綱（防災リスク除去）
京都府：跡地・再エネ導入補助	要件毎の支援	駐車場・農地等再エネ導入促進事業補助金（活用選択肢）

3. 他自治体の先進事例（「廃止」を政策・計画化する）

自治体	具体的な予算・計画枠組み	参考にすべき政策姿勢（ポイント）
兵庫県	ため池防災工事等推進計画に「廃止工事 189 箇所」を明確に位置付け（R3～R12）	改修のみならず「廃止」を重要な政策手段として計画管理している点
福山市	ため池廃止予算 7,200 万円 （県補助：3,700 万円 + 市単独：3,500 万円）	★重要：公的補助の要件に合わない『隙間』を、市独自の財政枠組みで補う制度設計

4. 土岐 新 の提案：まず「見える化」して1か所から始める

☞ 提案の目的は「すべてを市が抱え込むこと」ではなく、地域の善意のみに依存しない持続可能な管理体制の構築です。

【① 全体を把握】 現況、所有、管理主体、地域住民のボランティア負担、権利関係を同じ物差しで整理。

【② 優先順位を付ける】 防災上の課題、管理負担の重さ、農業利用の有無、跡地活用可能性をもとに適切に分類。

【③ 財源を組み合わせる】 国・府の制度を第一に活用し、対象外の公共性の高い市有地は市独自の支援（福山市モデル）を検討。

【④ まず1か所でモデル化】 令和9年度に向け、具体的な候補地の選定・現況調査・地域協議のいずれかから着実に着手。

【⑤ 成果を次へ横展開】 モデル事業で得られた手順、コスト感、合意形成のノウハウを、他の14箇所の廃池等へ順次活用。